

当紙では、「演劇鑑賞教室」について2011年から8年間にわたり論及してきた。その50回にわたる学校（先生）へのインタビュー等を劇団の方に読んでもらい、「再び劇団に聞く」と題し2019年2月号から連載開始するも、コロナ禍で翌年11月号までの22回でやむなく休止。738号から再開した。

## 「演劇鑑賞教室」を考える ～再び劇団に聞く～

32

劇団ポプラ 森本勝人さんに聞く

### 「心を動かす」ということが 生きていく上でとても大切

聞き手・まとめ 藤崎万喜男

#### ◆人と人との貴重な縁で

新しいステージへ  
劇団では営業と制作というところで業務を行っています。学校訪問や文化庁の巡回公演事業とか、子ども参加型のワークショップもプレイヤーとして参加もしています。学校の営業で私が担当している地域は愛知、岡山、九州で、地方の方が都会に比べてまだ入りやすい気がします。本来ならば1〜2週間の区分なのですが、経費とか効率を考えた上で行動するので、一ヶ月半とか行きっぱなしになってしまうこともあります。今年も1月9日から2月中旬の時期に、愛知から福岡まで車で帰って帰ってくるという状況でした。ポプラにお世話になったのは2019年の2月からです。それ

までは役者としてフリーで活動していたのですが、そこから「演技

#### ◆声優、役者

集団 朗」に三年間お世話になりました。その後、朗代表の新井浩介さんがポプラの町永義男さんとお知り合いということで、そこからの縁で、「ポプラで営業の仕事がある。プレイヤーではなく演劇に関わっていかないか」というお話を頂きました。せっかくの話なので経験させて頂こうと、ポプラにお世話になることにしました。役者としての思いもありました。子どもたちと参加型のミュージカルに関わる時、お兄さんの存在としていっしょに出演するという関わり方にも貢献できればというところで、今の仕事に満足しています。

#### ◆そして劇団スタッフとして

私が元々演技というものに興味をもったというか惹かれたのは、小学生の時にアニメが好きだったので声優になりたいという思いがあり、高校卒業後上京して東京アニメーター学院という専門学校で2年間声優の勉強をしました。ただ、そこでやっていて、声の仕事というのはいや自分自身が魅力的じゃないと意味がないなということを感じさせられて、今度は舞台芸術で自分自身を表現してみようという方向転換をしました。そこが演劇者としてのスタートでした。その後ずっと小劇場の方で大人向けの公演をしていたのですが、ひよんなどところで新井さんとお会いするというきっかけがあり、思



童演劇という世界の門を叩くことになりました。人と人との出会いのきっかけがありがたかったですね。

人を楽しんでもらうというのが元々の根幹にあるので、子どもたちにも観たり聴いたり感じたりしてもらったりするということが、社会貢献的な活動に繋がるといふことに幸せを感じております。そういったところで一つでも多く生で観られる作品、物語を通して感動というものを子どもたちに感じてほしいと思っています。

#### ◆先輩として

伝えていきたいこと

役者から劇団のスタッフになることについては最初は寂しさや葛藤があったのですが、頂いている役割とか自分が今行えるベストは何かということと考えると、今まで経験してきた10何年間というものを新たな世代に自分の経験をもって何か反映して、表現者として成長してもらえると嬉しい

には変わっています。それが表現者としての役者だけではなくて、子どもたちにも何かそういうものが一つでも多く伝わってほしい、僕自身が表現者である必要はそもそもないと考えています。それでも今の仕事に専念するのはある程度時間が必要でしたね。こうしたらいいな、ああした方がいいなと観ていて思う所はありましたが、そこはぐっと堪えて自分がそうであった時にこういう言葉をかけてもらえたらよかったです。とか、こうアドバイスした方が成長に繋がったのにな、ということを先輩として伝えていきたいなと思います。

#### ◆文化芸術の取り組みは

多くの理解があつてこそ

劇団の方々の話を拝見した時に、学校の芸術鑑賞、観劇会を観ていただくに当たって、引き続きやって下さるところと止めざるを得ない学校があるというあたりは皆さん苦労されているなと思います。自分も回っていて同じ思い、共感させて頂いた次第です。その中でそれぞれ何とかが子どもたちに日本の文化芸術に対する取り組みというのを一つでも多く広めていこうという思いや、意志というのは皆さんの言葉からすぐ伝わって、私も頑張っていかなければ

ばいけないということを変更して感じました。

先生方のお話のところでは八王子市立宮上小学校の金平先生のお話が一番感銘を受けました(64号)。難しい現代社会で元々取り組みがなかったところに、新しい取り組みを作ろうということでご尽力されたこと、それも校長先生の独断で行うということではなくて、周りの理解を得て行えたというお話伺えて、こういう文化芸術の取り組みというのは多くの理解があつてこそ意味があるものだ、独断的に強制的に観せてやっ

てよかつたねではなく、周りの皆さんがみんな賛同されて初めて意味があるのだとお話されているのを読んで、本当にその通りだなというふうに感銘を受けました。

こうして訪問営業をさせて頂く中でも、皆さんご多忙でこういう活動に重きをもつていただけの先生は多くはないのが実情です。

でも中には親身にお話を聞いてくださる先生もいらつしやいます。そういった先生には、こちらも熱い思いをお届けして、ご縁があれば前向きにご検討くださいという形で活動を続けています。

#### ◆子どもの反応、感想は

##### 芝居の原点

我々の団体の営業は新しいもの

になかなか着手しにくいというか、考えがいかずに足でかせぐ古い手法でしかアプローチできない面があります。ただ、その手法が相手の心を打つというか、直接お話をさせていただく中で感銘を受けて選んでいただくというのも一つのきっかけでもあるので、うまく両立できればと思います。

劇団ポプラが扱っている作品は全部名作なので、観て楽しいということが大前提で、あとは仕掛けとして映像を取り入れたミュージカルや、体育館でワイヤーで空に舞い上がっていくという手法も使っています。生で観るダイナミックさとか目新しさを伝えつつ、

作品の中にあるテーマ、私は本当の勇氣というのは何かというのを先生方にも感じていただけたらと思っています。

生徒数が200名のところから

千名を超えるところまで全部体育館でやらせていただいています。

これはもう40年以上やっている劇団ポプラの強みというか経験、町永さんが築いてこられた財産じゃないかなと思いますね。それを若い役者たち、制作スタッフが頑張つて守つているという感じですね。子どもたちの「わーっ」という歓声が聞こえると、我々もいっしょに同行してよかつたな、子ども

たちにちゃんと届いているなというのがありますね。

今コロナ禍の状況下でもあるので、あまり声をあげずに楽しんでくださいというような先生方の事前指導があつたりする中で、拍手で気持ちを表してくれる生徒さんも多く、その拍手の多さに本当に役者も演じながら心打たれているんじゃないかな、それを聞いている私たちが涙が出そうになる、このコロナ禍の中で公演をさせて頂いている学校の子どもの反応、感想には改めて芝居の原点と

いうのを感じさせられています。

#### ◆体育館があつという間に

##### 本物の劇場に

ポプラでは、上手下手に大きな幕を張つて楽屋兼仕込み部屋みたいなものを作り、ステージの方には別の幕を張つて本当の小劇場のように様変わりさせるので、体育館に入った子どもたちの第一声で「わーっ」「すごい」とか、「いつもの体育館じゃない」という声は聞かせて頂いています。そういうところから非現実的ないつとも違うようなところを感じてもらおうのが大切なかなと思っています。

体育館を後にする一人一人の子どもたちの表情だったり、「本当に楽しかった」、「また来てね」とかそういう声や言葉をいっぱい

頂くのが、僕の一番大きい喜びになっています。

特別支援学校の生徒さんの学校の公演で、様々な障害をもつた子どもさんたちが飽きることなく真剣に観てくださっていて、その姿勢というか姿に、感銘を受けたこともありました。

#### ◆子どもたちは勿論

##### 先生方にこそ楽しんでほしい

例えば学校の授業の中で学んでいる算数だったり国語だったりというの、文字とか先生からのお話を聞くという形で授業になつて

いると思うんですが、私たちが行つている劇とか音楽とかは、観て聴いて心で感じるものだと思います。人と人が関わり合うという事は心を動かすということ。その「心を動かす」ということが、人が生きていく上でとても大切なこと、その一つのきっかけとして物語や音楽を通して感動するという体験をもらうのは大切なものだと感じています。

このコロナ禍で、演劇鑑賞教室をやっていくことが本当に難しい中で、我々ができることは、素晴らしい作品、素晴らしい物語を先生と子どもたちに届けなくてはならないということです。そして感動した上で口コミで広がりを作つて頂き、それが大きな波になれば

いいのではないかと。先生方も楽しんで頂きたい。お伺いした時に先生から「子どもたちより先生方が楽しみにしてるんですよ」という声も頂きます。先生方が楽しんで頂けるのがむしろ大切なので、それが子どもたちにも伝わっていくのではないのでしょうか。楽しむことを忘れないでほしいですね。

学校公演をきっかけに先生方も文化芸術にいっしょに参加して心を動かしてほしいと思います。

我々の演劇や音楽がそのエネルギーになり明日を生きる力になるようなものにして頂けたらと思います。

#### ◆インタビュ終えて

一つ一つの質問に丁寧に答えて頂きました。誠実なお人柄を強く感じたものです。役者からスタッフに転身する時の心の内や新しい仕事に対する情熱など、とても興味深く聞かせて頂きました。

その誠実さと演劇に対する熱い思いをもって、一人でも多くの先生にお会いし、演劇鑑賞の素晴らしさを伝えていってほしいと思われました。そして子どもたちは勿論ですが、先生方も劇を観る前からわくわくし、子どもたちといっしょに劇を観る楽しさを味わつてほしいと強く思ったものです。

(3月1日、協会事務所に)